

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO



創 立：1980年(昭和55年)1月10日 事 務 局：460-0008
 名 長：泉 憲一 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
 幹 事：亀井 直人 T E L：052-211-3803
 幹 事委員：山回 哲司 F A X：052-211-2623
 例 会 日：毎週木曜日PM12:30～ M A I L：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
 会 場：ヒルトン名古屋 U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

第1636回例会

～世界理解月間～
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2014年2月20日(木) 晴 第32回

司 会：稲垣豊会場委員
 齊 唱：「それでこそロータリー」
 ゲ ス ト：小原和紙工芸作家 山内章平さん

会長挨拶

泉憲一会長

今日は、冬の花木、椿と山茶花について話をします。木偏に春と書いて「椿」と書きますが、これは日本で作られた漢字です。中国ではツバキ類一般を指して「山茶(さんさ)」と書き表していました。これに由来して「山茶花(さんさか)」が訛り、サザンカになったと言われています。



山茶花は今が花が咲くさかりの時期で、椿はこれから開花を迎えます。花のわかりやすい違いは、椿は完全に開かずカップ状になることが多いですが、山茶花は花びらが全開状態で咲きます。また、花が落花するときの様子を言い表すとき、「散る」というのが一般的ですが、椿だけは「落ちる」といいます。椿と山茶花は、花のかたちは似ていますが、花の終わりでも容易に区別ができます。花びらが一枚ずつはらはらと散る山茶花に対して、椿は根元の部分が重いので、どれも花をみせるように仰向けに丸ごと落ちます。「椿の花がポトリと落ちる様が打ち首に似ている」と武士に嫌われていた話を耳にしますが、調べてみると、反対に大変武士に好まれていた花と分かりました。

日本原産である椿は、古来から日本人に愛され、京都の竜安寺には室町時代の椿が残っています。安土桃山時代の豊臣秀吉は茶の湯に椿を好んで用い、江戸時代に入ると、江戸の将軍や肥後、加賀などの大名、京都の公家などをはじめ僧侶たちも茶道・華道・園芸を好んだことから、庶民の間でもおおいに流行し、たくさんの品種が作りだされました。椿は他家受粉と言って、同じ花のめしべとおしべで受粉するのでは無く、他の花のめしべに受粉して結実するために変種が生じやすく、古くから盛んに品種改良が行われてきました。咲き方は一重咲き、八重咲き、花色は一色咲きなら赤・白・ピンク、柄模様なら白斑・覆輪・絞りなど品種に富んでいます。特に茶花として珍重され、冬場の炉の季節は茶席が椿一色になることから「茶花の女王」の異名を持つくらいです。

こんな逸話があります。慶長8年(1603年)徳川家康が江戸に幕府を開いた年に、京都醍醐寺の三宝院の座主である義演が将軍へ白椿を献上した話があります。その意図するところは、関東では珍しい椿で、白椿の「八千代の栄」「長寿」の意味をこめて、末永き世の安寧を願ったものであるだろうと推測されています。その後、二代将軍家忠が諸国から椿を集めたことから、

その注目度は一気に加速し、元禄文化の爛熟に一躍を担うことになりました。また西洋に伝来すると、冬にでも常緑で日陰でも花を咲かせる性質が好まれ、大変な人気となり、「東洋のバラ」として親しまれました。

咲く花の鮮やかさとは裏腹に、椿の実地味で、濃い緑の葉陰に隠れるようにひっそりと実っています。この実から絞った椿油は、用途が広く、和製オリーブオイルとも言われています。油にはオレイン酸という成分が豊富に含まれ、悪玉コレステロールを低下させるという優れた働きの他にも、人の皮脂に近いので肌なじみがよく保湿力も高いという特徴があります。このため、椿油は食用だけではなく、スキンケア・毛髪ケア用品などにもよく使われています。

これから山茶花から椿の季節へと移り変わっていきます。園芸品種がたくさん作りだされて紛らわしくなり、区別が付きにくくなってきています。山茶花か椿か、足をとめて観察してみるのもおもしろいと思います。これで、会長の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

出席報告

酒井俊光出席委員

会員62名 出席35名 (出席計算人数44名)

出席率 64.8% 2月13日は補填により 92.4%

ニコボックス

酒井俊光ニコボックス委員

- ・本日の卓話は、山内章平氏にお願いいたしました。よろしくお願ひします。 鈴木 淑久さん
- ・ロータリーバッジなくしました。 八木沢幹夫さん
- ・本多さんおめでとうございました。 内田 久利さん

幹事報告

亀井直人幹事

- ・本日、西名古屋分区分IMがウェスティンナゴヤキャッスルにて行われます。15:30から登録開始、16:00から18:00開会・点鐘、18:15から20:00まで懇親会です。

卓話

小原和紙工芸作家 山内章平さん

小原和紙工芸と伝承とは

はじめまして、山内章平と申します。私は小原和紙工芸の作品を制作し、芸術の発信を日々の生業としています。本日は、甚だ若輩者の私が、この場で、お話をさせて頂くということで、驚天動地の心地です。今日は、小原和紙工芸における先輩後輩の関係や、先輩達の背中を見つめて、後輩達は何を学び、いわゆる伝承というものがあるのかということ、私なりにお話したいと思います。

よく間違われやすいのですが、特に日本においては「工芸」という意味がいろいろあります。「製品」としての「工芸」であった



り、そして我々が身を置いている「工芸美術」という世界などです。技術の発信をすることで工芸という要素を使うことなどがありますが、そこでよく聞かれるのは、「職人さんと作家さんはなにが違うのですか？」という質問です。違いは簡単に言えば、工芸品を作る者と、工芸の要素を取り

入れて芸術作品を作る者と言うことになります。つまり、私たちは「芸術の発信をしている者」です。

「和紙という素材を使って芸術の発信をしていく」という教で、三河森下紙から小原和紙工芸に転換した訳です。そうしますと「小原和紙というモノを使ってアートの発信をしているのではないのですか？」と言われるのですが、「小原和紙」というものがあるのではなく、「小原で和紙を使って工芸美術をしている」という意味です。まず、こういった誤解を解いていくことから始めて頂きたいと思います。

というのも、小原では500年以上前、ゴルフ場感覚でいうと、笹子 CC 付近のお寺のお坊さんが美濃から美濃和紙という技術を持ち帰ったところから、三河森下紙という紙すきの文化が現在の愛知県の小原地区で始まったそうです。三河森下紙というのは美濃和紙や土佐和紙、越前和紙と同じように何にでも使える工芸品としての和紙でした。その文化が500年以上続いてきた中で、明治以降、弱小の三河森下紙は衰退の一途を辿っていました。そこに藤井達吉先生という、愛知県の美術工芸だけでなく、あらゆるジャンルに精通した芸術家で大変な功績を残されたお方が、愛知のものを使って芸術の発信をしていこうと尽力なさってくださいましたことで小原との縁が、小原和紙工芸が始まりました。その時点で、三河森下紙は職人の高齢化によって消滅寸前でした。そこで、当時の村長さん達が藤井先生に技術の保全と伝承をお願いし、藤井先生から「産業としての和紙」でなく「芸術を発信する手段としての和紙」にしたらどうだろうかという御指導を頂きました。そこから小原の先輩方は、和紙を芸術を発信する手段として、原料や紙すきなどの技術に着目してゆきました。何度も繰り返してしまっていますが、小原和紙工芸とは、「小原和紙」というものがあるのではなく、「和紙」というもの全般と向き合っ芸術を発信してゆくものなのです。芸術作品は、己の技術を誇示するためのものではありません。作品を通して、皆様と苦しみや喜びを分かち合っていく、言うなれば「心と心のふれあい」というのが芸術、あるいは芸術家の仕事だと思えます。そういったことに真剣に向き合ったうえで、「和紙」と向き合う作家達が所属しているのが小原和紙工芸会でございます。

では、作家としてお互いどう見つめ合っていくのか、伝承という部分はどこにあるのか。それは、先輩達の芸術の発信、表現の格闘や葛藤を作品の内外で我々後輩は触れ、先輩方の痕跡を辿ることで沢山の刺激を受けて、自分たちの研鑽を、心を磨くことにあると思っています。小原和紙工芸は自然の力を借りています。自然と向き合うことで、さらに昇華させていくことができます。積極的に何かを取り入れようとする気持ちを先輩方からの教えをいただくことにより、またそういうことが後輩に伝わってゆくことで、伝承というものが出来上がっていくと思えます。これから

も小原和紙工芸で芸術の発信をしてゆきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。

西名古屋分区IM

2月20日(木)、名古屋丸の内ロータリークラブがホストの下、ウェスティンナゴヤキャッスルにて盛大に行われました。当クラブの近藤雄亮ガバナーエレクトも壇上にてご挨拶されました。



森の防波堤プロジェクト現況報告

鈴木健司

ドングリで防波堤を作ろうという事でプロジェクトが始まり、一年余りが経過しました。発芽が思うようにいかなかったり、種は遺伝子の事を考えると植林する地方のものがよいなど色々と有りましたが、無事東北からの種も到着し、去る1月29日に高村さんのベジファームにて種まきをしてまいりました。



このまま順調にいきますと、春先に発芽したドングリが夏頃には10cm~15cm位になり、秋には15cm~20cm位になり、苗場からポットへの移植の適季を迎えます(盛夏は植物の蒸散活動も活発で、移植後の水やりも大変なため、秋風が吹くころが植物の生理的にも、移植を行う人の体力的にも良い様です)。

そこで、会員の皆様にはたくさんの労力を必要とする移植の作業(1人1時間当たり20~25株位が処理能力)の際にはぜひとも御参加いただき、その後の1年~2年余りの苗の管理に御協力いただきたいと思いますので宜しくお願いします。

(植物の成長を見るというのも意外に楽しく、特に小さいお孫さん等がみえる方にとっては情操教育にも良い事と思われまますので、ぜひ御参加ください。)

例会のご案内

■今週の卓話 2月27日(木)

会員卓話：市岡正蔵さん
テ－マ：他クラブを訪問して

■次週の卓話 3月6日(木)

卓話講師：白鳥山法持寺住職・愛知学院大学教授 川口高風さん
テ－マ：志気には老少なし

■次々週卓話 3月13日(木)

会員卓話：松井善則さん
テ－マ：空手道とは